

再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名 九州横断自動車道延岡線 ^{かしま} 嘉島JCT ^{やべ} ～矢部	事業区分 高速自動車国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局				
起終点 自：熊本県上益城郡嘉島町大字井寺 至：熊本県上益城郡山都町 城平	延長 23.0km					
事業概要 九州地方中央部を横断する高速道路ネットワークの一部を形成し、熊本県と宮崎県の連携強化や災害に強い広域的なネットワークの構築を目的とした事業である。						
H10年度事業化	H-年度都市計画決定 (H-年度変更)	H17年度用地着手 H17年度工事着手				
全体事業費	約1,094億円	事業進捗率				
計画交通量	11,700～15,100台/日					
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C (事業全体) 1.01 (残事業) 3.1 </td> <td style="text-align: center;"> 総費用 : (残事業)/(事業全体) 150/1,435億円 (事業費 : 107/1,331億円 維持管理費 : 43/104億円) </td> <td style="text-align: center;"> 総便益 : (残事業)/(事業全体) 467/1,449億円 (走行時間短縮便益 : 382/1,180億円 走行経費減少便益 : 59/191億円 交通事故減少便益 : 27/79億円) </td> <td style="text-align: center;"> 基準年 令和3年 </td> </tr> </table>	B/C (事業全体) 1.01 (残事業) 3.1	総費用 : (残事業)/(事業全体) 150/1,435億円 (事業費 : 107/1,331億円 維持管理費 : 43/104億円)	総便益 : (残事業)/(事業全体) 467/1,449億円 (走行時間短縮便益 : 382/1,180億円 走行経費減少便益 : 59/191億円 交通事故減少便益 : 27/79億円)	基準年 令和3年	
B/C (事業全体) 1.01 (残事業) 3.1	総費用 : (残事業)/(事業全体) 150/1,435億円 (事業費 : 107/1,331億円 維持管理費 : 43/104億円)	総便益 : (残事業)/(事業全体) 467/1,449億円 (走行時間短縮便益 : 382/1,180億円 走行経費減少便益 : 59/191億円 交通事故減少便益 : 27/79億円)	基準年 令和3年			
感度分析の結果 【事業全体】 交通量 : B/C=0.84～1.16 (交通量 ±10%) 【残事業】 交通量 : B/C=2.3～3.8 (交通量 ±10%) 事業費 : B/C=1.003～1.02 (事業費 ±10%) 事業費 : B/C=2.9～3.3 (事業費 ±10%) 事業期間 : B/C=1.01～1.01 (事業期間±20%) 事業期間 : B/C=3.1～3.3 (事業期間±20%)						
事業の効果等 ①広域交通ネットワークの形成 ・九州横断自動車道延岡線の整備により、熊本市～延岡市間の所要時間短縮に加え、沿線地域住民の生活圏の拡大や生産業や観光業など沿線地域間の交流・連携の促進が期待される。 ②災害に強いネットワークの構築 ・九州横断自動車道延岡線の整備により、災害リスクが回避され、確実な幹線機能を確保した災害に強いネットワークが構築される。 ③防災機能の強化 ・災害に強い道路ネットワークが形成され、大規模災害発生時における救命活動、緊急物資や復旧・復興を迅速かつ確実に輸送するルートとして期待される。 ④定住促進の支援 ・九州横断自動車道延岡線の整備により、山都町～熊本市間の所要時間が短縮し、山都町の定住促進が期待される。 ⑤地域活性化の支援 ・九州横断自動車道延岡線の整備により、沿線地域における施設の整備が進んでおり、地域の活性化が期待される。 ⑥生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減 (CO ₂ , NO ₂ , SPM削減)						
関係する地方公共団体等の意見 山都町長、御船町長等で構成される①九州中央自動車道建設促進期成会（会長：山都町長）、宮崎・熊本県知事や沿線市町長で構成される②九州中央自動車道建設促進協議会（会長：宮崎県知事）等により早期整備の要望を受けている。（①令和3年5, 7, 10月、②令和3年10月） 県の意見：今回、意見照会のありました九州横断自動車道延岡線（嘉島JCT～矢部）に関する国の「対応方針（原案）」案については、異存ありません。 本路線は、九州の横軸として本県と宮崎県が繋がることで、観光客の増加や物流の効率化など様々な波						

及効果が期待され、地域経済の発展や地方創生の実現に不可欠な道路です。

また、「平成28年熊本地震」や「令和2年7月豪雨」等を経験した本県が、大規模災害発生時等に九州を支える広域防災拠点としての役割を担うためにも、「命の道」となる九州横断自動車道延岡線の早期整備により、道路の多重性、代替性を確保することが極めて重要であると考えています。

さらに、本年4月には、本区間の令和5年度開通見通しが公表されたところであり、開通により本県が目指す地方創生の実現や県民生活の安全・安心の向上につながるものと期待されています。

以上のことから、本県としては、一日も早い全線の完成供用を切望しており、今後とも、なお一層の整備推進とともに、更なるコスト縮減に努めて頂きますようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は近年減少傾向にあるものの、一世帯あたりの自動車保有台数は増加傾向で、熊本県平均や九州全体を上回っており、自動車交通への依存は高い状況にある。並行現道(一般道)の交通量は増加傾向にあり、依然として事業の必要性は高い。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成10年度に事業化、用地進捗率100%、事業進捗率89% (令和3年3月末時点)

平成25年度：^{かしま}嘉島JCT～^{おいけたかやま}小池高山IC間 延長1.8km(2/4)開通

平成30年度：^{おいけたかやま}小池高山IC～^{やまとなしまにし}山都中島西IC間 延長10.8km(2/4)開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

令和5年度：^{やまとなしまにし}山都中島西IC～^{やべ}矢部IC(仮称)間 延長10.4km(2/4)開通予定

施設の構造や工法の変更等

豪雨災害による復旧工の追加、岩石小割の追加、土捨て場箇所変更に伴う運搬距離の変更、熊本地震における施工確保対策(復興係数の適用)による追加

新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める

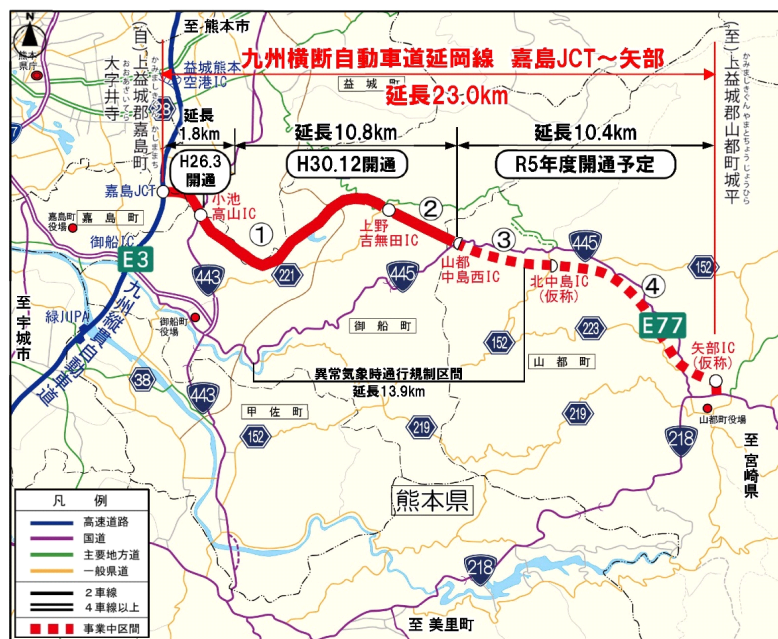
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。